

---

# 魔法先生ネギま!俺は最強の菌になりました

八ヶ岳

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

魔法先生ネギま！俺は最強の菌になりました

### 【Nコード】

N6406W

### 【作者名】

八ヶ岳

### 【あらすじ】

主人公は転生する。魔法先生ネギま！の世界にだが主人公が思う最強は変わりすぎていた。もやしもんを読んだ日から。

ネギ？風邪にしてやんよ。転生者？足を水虫にしてやんよ。

紅き翼？興味ないね。造物主？新種の菌の実験台にしてやんよ。

一部自己設定があるのでご注意ください

さらにいろいろな意味でチートです

こんなネギまは嫌な方はご注意ください

## プロローグ？（前書き）

すいません

もうがまんできませんでした。

そして神様口調が途中で崩壊

## プロローグ？

俺は死んだはずだったんだが？

「あ、起きましたね」

俺の死因は未発見の菌だったんだがやはり菌最強説はあったのか。

「あのう、こっちみてくれませんかね？」

「む、どこにもいないじゃないか」

「え、いやあなたが思う神の姿なんですが……………」

「そうかならばこれが必要だな」

「え、いやなぜ顕微鏡を？」

はあ、だめだなこの神は。

「いやあなたが思う神になっているはずなんです」

「準備完了。あとはみるだけだ」

「スルーですか。あなたが神をどういう風にみてるかだんだん分かってきたんですが……………違いますよね！違いますよね！肯定しないでくださいよ！お願いですから！」

「いや大体あつてと思うよ」

「肯定したよ！この人肯定しないでくださいってお願いしたのに！マジで肯定しやがったよ。まだゲテモン想像してくれた方が良かったよ！」

「おっ、さすが神だけあって未知の菌だな」

「言った。こいつまじで言いやがったよ。せめて現実逃避できるようにその言葉は言われないうに言葉を慎重に選んだのにさあ。てか神なのに菌ごときにならないといけないんだよ」

「菌【ごとき】だとお？菌のすごさをてめえに分からせてやんよ」

「ひいひい」

しばらくお待ちください

そういうわけで閑話休題

「すいませんすいません菌をバカにしてすいませんほんとうにすいません菌をばバカにしてすいませんすいませんすいません………」

「まあいい。何で俺をここにつれてきた」

「暇つぶしに転生させようかと」

「そうか、ならさっさとしようか」

「あなたは話が簡単に通じて楽ですね」

「他にも転生したやついんのか？」

「ええ、まあ『銀髪の超イケメンでオッドアイにしてニコポ・ナデポをくれ』とか言いやがったから元いた輪廻の輪に強制でもどしましたけど」

「そいつバカだろ」

「ええ、そうです」

「まあいいで転生ってどうやるんだ？」

「じゃあ願いを4つ言ってください」

「不老で俺を菌にして俺になりたい菌の効果になれるようにしてくれ」

「あなたなんで菌関係が多いんですか？」

「ああ、そりゃあ【もやしもん】読んだときに菌ってすげえなあと思っただからだよ」

「そうですか、最後のを言ってください」

「白亜紀に送ってくれ」

「ではでは送りますね」

「そうそう質問するが俺が行く世界に神が送った転生者はいるか？」

「ええ、いますよ。数人他の神が送りました」

「そうか」

「じゃあその扉をくぐると転生できます」

「じゃあ行ってくるわ」

「では楽しい来世をお過ごしください」

そして主人公は扉をくぐって転生した

「行きましたか」

「さて今度転生させるのが菌などに見えないように神殿などを建てたりしませんと。はあ、がんばりますか」

## 菌は八つ当たりをするそうです（前書き）

『』はGODゴッドからの電波？やしゃべっているときで、  
《》は菌がしゃべるときで、

ティラノなどの動物？がしゃべるときは□です

主人公が途中から外道っぽい

そしてティラノくんとGODゴッドには合掌WW

## 菌は八つ当たりをするそうです

白垂紀はくあきの上空についた。

菌だから大丈夫。だいじょうぶ『この手紙を読んでいることはついたよだね。それと仕返きんせいしの意味もこめて普段は生身だから普通に死ぬからね。では良い菌生きんせいを。追伸 菌になるには「GOD様最強でイケメンで洗脳してごめんなさい」っていわないと無理ですby 尊敬されるGODゴッドより』じえねえー！！

「ちよ、やばいんですけど」

はあ？ふざけんなよ。イラっとくんな。あとでかもすぞ。ごらっ。

まあ今の状況はああああああああああああ

「もう気合じやああああアアア」(このときになったのは白癬菌はくせんきん。

単行本のもやしもん一卷P・50ページ)

セーフ！！

だけどさあ。なんで目の前にティラノサウルスがいるんですか？しかもこっち見てるんですけど。

『そりゃあ、君はまだ能力が使いこなせていないからだよbyイケメンな神より』

まじかよ……………でもなあティラノとGODゴッドでめえらは菌の力を誤った。さあ菌の力を見せてやろう

「白癬菌右手分裂！！！！」

《かもすぞー》

《かもす、かもす》

《かもして幸せに暮らすんだ》

「さあ、かもそうか」

かもし中なため

誰にも見せれません

ティラノサウルスがかもされているため閑話休題

そして数日後のティラノサウルスクンは……………



「おーoooooooooooooo（足がー  
ー）」

「っおおおおおおおおおお（足がいてえよー）」

「ツォー——————（だれがあ  
だずげでえ）」

「治してやろうか？」

「ぎゃうぎゃう（なおじてください）」

「治してほしいなら首を縦にふ」 「ぶんぶんぶぶぶぶぶぶぶぶ」 よし直してやろう」

ゴッド  
そのころのGODは……………

『菌ごときがGOD  
ゴッド  
POWERなめんじゃねえぞごらあ  
パワー  
』  
『治れ』

テンテカテー♪

GゴッドODは水虫が治った

そしてまたかかってしまった

『治れ』

テンテカテーン♪

GODは水虫が治った

そしてまたかかってしまった

治してかかって治してかかって

神様は仕事が出来なかったそうなの

続く？

**菌は八つ当たりをするそうです（後書き）**

少し編集しました。

そしてWikiで調べたらかなり痛いようです。

## 修行報告? ? (前書き)

今度から菌の被害報告をしようと思う (悪笑)  
そして今回自己解釈MAXスピードで行きます。

## 修行報告? ?

前回のあらすじ（笑）

ティラノくんが水虫に（八つ当たり）

GODゴッドが新型の水虫に（自業自得）

《僕たち乳酸菌の出番がほとんどないじゃないか！》

《当分は僕たち白癬菌はくせんきんの出番さ》

《《な、なんですとおー！？！》》

魔法先生ネギま！俺は最強の菌になりました 修行報告? ?

さて俺はいきなりすぎるが修行をしようと思う。なぜって？それは  
.....

『君が僕が治しても治しても水虫になる未発見の菌のせいで仕事が出来なくなったため部下の苦情が酷いから君が菌の操作するレベルが上がったら未発見の菌を操作できるようにさせてもらったよ。

b y 水虫にまだやられているGODゴッド』だそうだ

ふざけんなよと思ったがあきらめることにした。

だから修行をしないといけないこれはこれでまた新しい操作方法が思い浮かぶと思う。というか思いついた（笑）

それは菌を普通の人が見えるほどに圧縮すること。これをすればたとえばだが一分もたたないうちに風邪になったりするだろう。

だから今日から菌の圧縮を練習しようと思う。

そして一年後

圧縮はできてきたが自分の圧縮の理想には到達していない。それと体力づくりもはじめた。なぜかって？そりゃあ一回襲われたんだよ一応逃げたけど体力がなさすぎて喰われたからな。つっても食われ

た後ライノウイルス（単行本一巻登場）になって増殖してでてきたんだけどな（悪笑）

それから三十年後

圧縮できるようになったといっても米粒程度なのだがそれと体力がはんぱなくあがったというかどこまで走れるかやってみたら未来の日本からアメリカまで走れた（笑）今度は海の上も走れるようになるかもしれない。

さらに六十年後

やっとこさ菌が米粒からビー玉になった。体力は最近上がりにくくなったから握力でも強くしようと思う。さいわい足腰はかなり鍛えられているから—————（文字がかすれていて読めないようだ）

修行報告？？は終わる

今回までの菌の被害報告

神様↓一時的に洗脳される・凶悪な水虫に・仕事ができない  
ティラノサウルス↓八つ当たりで水虫に

## 修行報告? ? (後書き)

もやしもんで初めて登場した菌の初めて登場したページ数を数えるのがめんどくさいんで (発見された菌の種類の数が多いから無理) 今回から登場した単行本の巻だけ言わしてもらいます。

## 修行報告？？（前書き）

亀更新で駄文はきついなあ（さらに短いとは）。



## 修行報告??

前回のあらすじ

誰もかもしてません（ウソですが）

《面白くないよね》

《とうかさ僕たちの出番があらすじとかひどいよね》

《作者かもさない?》

《《さんせい》》

作者はかもされたかはわかりませんが

魔法先生ネギま！俺は最強の菌になりました 修行報告??

百年後

やっとビー玉から髪の毛ぐらいの長さが出てきた。

……………気長に修行しようと思った。

握力と脚力はかなり上がってんのかなあ

そして二百年後

つ、疲れたあー。やっとビー玉十髪の毛（一本）の大きさからビー玉が一回り大きくなった。

たんとんと千年後

……………やっぱ野球のボールの大きさになった……………

残酷な三千年後

.....や.....つ.....と.....サッカ..  
.....ーボ.....  
(途切れている)

未成年はお酒を飲めま五千年後  
やったよーん。最近は急激に伸びすぎて家の大きさになったよーん。  
ってなんでだあーーー。

### 観察している罪人の報告書より

『ツチイ。糞野郎ガア。あの罪人は消滅させるはずだというのに。  
あの罪人を送りやがって。前回の・・・であいつは元にもど  
すはずだったというのに。に送りやがったって。まああの馬鹿以下  
上司が水虫にかかったり洗脳されたりしたのは見ものだったが……  
……。ツチイ、それに語り奴隷まで来やがったか。今度の…………  
・は最悪だな。すまねえが仕事だ。語り奴隷を殺してきてくれ××  
××(話の内容は途切れている)』

修行編はまだ終わらない!?

## 修行報告? ? (後書き)

アンケートという名の説明をください (自分でも一応調べますが)  
《だめだめじゃん……………》 (だが菌が何を言っているのかは作者には聞こえていない)

白亜紀の始まりから終わりまで何億年でしたっけ? 《駄作者なんて  
かもしてもいいよね》

こんな面白い小説とかを読んだ後テンションが上がりすぎて意識が  
なくなつて意味が分からない感想を書くような駄読者が駄文で亀に  
失礼なほど遅い更新をお気に入りに入れてくれてありがとうござい  
ます。《かますことにしたけど後がきをやってるからかもせないん  
だよなあ》。仲間を呼んだのにさあ。早くかもしたいなあ》

## 『消滅したい』（前書き）

あけましておめでとうございます。

更新遅くてすいませんでした。

それなのに番外編で本当にすいません。

『消滅したい』

『消滅がしたい』

『なぜだ？こんなに快適だろうが』

『消滅がしたい』

『なぜだ？神よりは力が弱い、人間どもをわざと殺して、力を与え、人間どもが自分で作ったと思ってる漫画や小説の源になった世界や似た世界におとし。なりたかったもの、したかったことをして、死ぬとき真実をしり絶望をした顔が最高じゃないか。なあ』

『黙れ』

「は？」

『元々は同じ人だったくせになあ。それに神とお前は言っているがあれも元々は人だったのにな。いまじゃ 力というなの幻想にとりつかれ、そして振りかざしゲームのように命を弄ぶ（もてあそ）存在まですになった。そしてそんな末路が俺やお前たちだろう。まあ、そりゃあお前が言ったことをやっているやつが大半だ。』

『誰があんな下等生物と一緒にされなきゃいけないんだ!! お前なんか消滅さしてやる。』

『まったくお前は消滅できないことも覚えてもいないのか。だからお前は第二十四回目のゲームで一番最初に殺されたんだよ。』

『黙れええええええ！！！！！！！！！』第一回目で優勝できたからっていい気になりやがってえ！！』

『お前は本当にアホだよな。いい気になってたら消滅なんてしようと思わないだろうが』

「ただね。」

「神以外は勝てないのね。まあ奴隷零号が言っているように神も神じゃなくて人なんだけどね。」

「それにこの空間と今やってるゲームの回数と奴隷の人数と神の消滅方法を把握して仕事も一回もせずに消滅させられない存在だよ

ね」

「まあ、それを知らないでいい気になってた奴隷二十四一万一号は話しかけて切れたんだよな。切れたの　って奴隷二十四一万一号で一万回目だね。あとでなんかあげよう。」

「あっ、終わったみたいだよ。まあ結果は当然だけどね」

「ねえ、仕事から奴隷四百万一号が帰ってきたよ」

「ちがうよ、奴隷三百万一二号だよ。」

「はあ、お前らよくまあそれで仕事が勤まるな。そいつは奴隷五百万一零号だろうが。」

「あっ、奴隷零号さんありがとうございます。五百万回目のゲームの優勝者でしたか。」

「お前らってため口をするのは双子で話してるときか。」

「はい、そうですが何か問題でもありましたか？」

「いや、うん気にするな」

「あ、すいませんが奴隷五千百万十一三百四十号が記憶消去させられそうなので行って来てください。」

「ことわったら？」

「迷<sup>めい</sup>って人が第一億九千九百九十九万九千九百九十九回目のゲームに出場させようと思ってるらしいですよ。第二十三万神<sup>だいにじゅうさんまんしん</sup>がゲームに出場させるものを殺すときに零点零瞬　で殺すものと入れ替えてですが。」

「別に俺は出場はいいんだけどな。奴隷五千百万十一三百四十号が記憶消去されても」

「そうですか。」

「では九千九百九十九回目から一万回目の出場になります。」

「あっ、言い忘れましたがあなたが出場される場合は二次小説の小説家になろうで人が思う駄文で出場しなければなりません<sup>キング</sup>が宜しいですか？ちなみにスパイによって二回目の出場となる菌王<sup>キング</sup>がものごろしとして記憶消去で出場されています。ちなみにですが奴隷一億九千九百九十九万九千九百九十八一万一号が菌王<sup>キング</sup>によって一番

最初に殺されたため駄文になって二次小説を書きたく思わせられた小説家になろうのID137521の八ヶ岳に送っています。」

「ちなみに奴隷一億九千九百九十九万九千九百九十八一万一号を奴隷番号は殺してもよいと迷<sup>メイ</sup>と名乗る方がおっしゃっていますので殺せばここに仕事失敗で戻ってきますので違う方が行きますので駄文では なくなり題名とタグと主人公も変わるかと。」

「では、お氣をつけていつてらっしゃいませ奴隷番号」

「行ってくる」

「ふう、行ったね」

「うん、そうだね」

「あ、見てみて奴隷二十四一万一号が起きたみたいだよ」

「なにあげる？」

「もう、自分が言ったんだから自分で決めなきゃだめだよ」

「うーん。そうだ。じゃあもう一回だけゲームに出場できるチャンスをあげよう」

「迷様に言わないとだめだよ。迷様はいいよって言うと思うけど。」

「あっ、見てみて迷様が奴隷二十四一万一号が泥とお菓子とおならにつつまれてるよ」

「うわぁ、迷様って時々嫌な送り方するよね。」

「第二十三万一神もかわいそうだね。嫌々ながらゲームに参加させるのを殺さないといけないのが泥とお菓子とおならのにおいがするなんてね。」

「うん、トラウマになってそうだよね」

『消滅したい』 完

ここからは解説コーナーです。

「解説役の第一回目のゲームで準優勝した奴隷一号です。よろしくね☆」

迷<sup>メイ</sup>と名乗る者は元々は生きるということが嫌いな者が死んで二次元

と三次元の狭間の無で迷子になり二次元に来てしまった者。人が神  
と知っている力を得てこの空間と二次元と三次元の狭間にいた者を  
自分が得た力の劣化版を与えた。

菌王<sup>キンク</sup>などのように、ゲームを否定して送った者たちもいるようだ。

「ちなみに解説役を頼んだのは迷子の迷子の迷<sup>メイ</sup>さんです。」

「それと迷<sup>メイ</sup>と名乗る理由は迷子の迷からとったそうです。単純で笑  
いすぎてしまいました。」

「次の話で解説することがあったら会おうね。バイバ～イ☆」



## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n6406w/>

---

魔法先生ネギま!俺は最強の菌になりました

2012年1月4日14時46分発行